

# とうほく街道会議第 15 回交流会 万世大路・福島大会 報告

万世大路研究会(大滝会)

鹿摩貞男

とうほく街道会議第 15 回交流会 万世大路・福島大会が関連行事を含め令和元年 9 月 27 日(金)～29 日(日)の 3 日間に亘り福島市において盛大裏に開催されたので報告する。大滝会は、かつて万世大路(現国道 13 号、福島～米沢間の名称)と共にあった集落として、今回の行事開催の協力団体として全面的に協力したものである。

## はじめに

とうほく街道会議は、東北地方を街道で結び、東北の歴史、文化、風土を活用した地域づくりに貢献することを目的として、平成 17 年 3 月に東北各地の関係者が集まり設立された任意団体である(会長:宮原育子宮城学院女子大学教授・現代ビジネス学部学部長)。毎年各県持ち回りで交流会が開催されているもので、福島県では 3 回目となるけれども、明治の街道が主テーマとなるのは今回が初めてと聞いている。

## 万世大路・福島大会

今回行事は、関連を含め 3 日間にわたり開催されたもので、はじめにその概要を示す(企画展・パネル展示は 10 日間)。

### 【とうほく街道会議第 15 回交流会 万世大路・福島大会】

日時 令和元年 9 月 27 日(金)～29 日(日)

場所 福島市こむこむ館(福島駅東口) 探訪会:万世大路・米沢街道・福島市内

主催 大会実行委員会

(実行委員長 木幡浩福島市長、副委員長 小浪尊宏福島河川国道事務所長)

とうほく街道会議・ふくしまけん街道交流会・万世大路研究会・国土交通省福島河川国道事務所・国土交通省福島運輸支局・福島県・福島市・福島商工会議所等)

共催 (一社)東北地域づくり協会等

後援 (略)

協力 大滝会等

(写真-1①～③)



写真-1① 交流会 会場こむこむ館(福島駅東口)



写真-1② 交流会 会場こむこむ館(福島駅東口)



写真-1③ わいわいホール受付とパネル展(右側)

**〇9月27日(こむこむ館、岩代屋敷大王)**

**【第一部 フォーラム 13:30~17:00 こむこむ館】**

**(1)オープニングセレモニー**

郷土芸能 飯坂太鼓

実行委員長あいさつ 木幡浩福島市長

とうほく街道会議会長あいさつ 宮原育子

来賓あいさつ 国土交通省東北地方整備局酒井洋一道路部長、内堀雅雄福島県知事(代)

**(2)全体会**

基調講演 『万世大路』の華麗なる復活劇に見る『廃道』の活用可能性

講師 平沼義之(廃道探検家・フリーライター)

**(3)分科会(パネルディスカッション)**

①第1分科会 「土木遺産としての万世大路を楽しむ」

コーディネーター 元東北大学准教授 後藤光亀 他

②第2分科会 「街道を活かした地域活性化と観光創造」

コーディネーター 福島大学教授 奥本英樹 他

**【第二部 街道談議 18:00～ 岩代屋敷大王】**

交流会

**○9月28日(街道探訪会)**

**①第1コース「万世大路を歩く」**

ガイド 阿部公一(万世大路研究会代表) 鹿摩貞男(万世大路研究会代表代行)

**②第2コース「米沢街道～李平宿と石畳を訪ねて」**

ガイド 柴田俊彰(福島市史編纂室) 吾妻郷土史談会

**③第3コース「奥州街道・福島城下を歩く」**

ガイド 守谷早苗(福島市史編纂室)

**○9月29日(特別講座 こむこむ館)**

**①「米沢街道の歴史」講師 柴田俊彰(午前の部)**

**②「明治9年・14年の東北巡幸と福島町そして万世大路」講師 守谷早苗(午後の部)**

**○9月25日～10月4日(企画展・パネル展 こむこむ館)**

**①企画展「明治の東北巡幸と福島町、そして万世大路」(解説 守谷早苗 柴田俊彰)**

**②パネル展示「万世大路、そして東北中央自動車道へ～歴史をつないで～」(国土交通省)**

(別添資料-1「大会プログラム」参照)

以下各イベントの概要について報告する

## 第1 フォーラム(第一部) 9月27日(金)

開会式に先立ち郷土芸能として飯坂太鼓が披露された。

開会式では、主催者として大会実行委員長木幡浩福島市長、とうほく街道会議宮原育子会長からあいさつがあり、来賓として東北地方整備局酒井洋一道路部長、内堀雅雄福島県知事(代理)からあいさつがあった。なお当日は、300名近い参加者があったと聞いている。

次に基調講演がおこなわれた。

(写真-2①~③)



写真-2① オープニングセレモニー  
郷土芸能・飯坂太鼓



写真-2② 大会実行委員長木幡浩福島市長挨拶



写真-2③ わいわいホール  
オープニングセレモニー

## 基調講演 『万世大路』の華麗なる復活劇に見る『廃道』の活用可能性(14:00~15:20)

講師の平沼義之氏は、「山さ行がねが」(ウェブサイト)、通称ヨッキレンとして知る人ぞ知る廃道マニアである。もっともご本人によれば、廃道探検家(オブローダー:廃道歩きを愛する人)・フリーライターである。

### 《講演概要》

万世大路を「廃道の聖地」と呼び、廃道の魅力を「冒険」「廃美」(廃れ行く土木建造物の美)「歴史」「技術」(土木技術の発展)の四つのキーワードで表現出来るとする。万世大路は、その四つの魅力をすべて兼ね備えているという。氏自身もこの万世大路により廃道の魅力を知ったと

いうことである。自身の万世大路探索の経緯を最近の状況と共に説明され、栗子隧道探索時の秘話も公開された。栗子隧道は、その中央付近で崩落し閉塞状態となっているが、平成19年5月には、米沢側からその閉塞箇所を一部掘り進み福島側へ抜けたという(初代隧道貫通以来の再貫通)。まさに「冒険」であるが、氏自身が語るようにその危険な行為については賛否両論があるところで、我々「楽しむ派」としては、万世大路におけるそのような危険な行為には賛同しかねるところであり、他の人は決して真似をされないよう希望する。

それはともかく、その他万世大路の各箇所の魅力について紹介して頂いた。また、全国1000箇所以上の廃道を探検された経験を踏まえ幾つか特徴のある廃道を紹介されていた。その上で、廃道を整備しすぎてしまうことへの疑問(整備は最小限に)、見せ方の工夫の必要性について言及され、万世大路の今後のあり方についてもいろいろ提案をして頂いた。現況の万世大路が一番良いと思われること(あまり手を入れない)、その整備については多くの方の意見を聞くこと、管理者不在の中では関係者みんな協力して維持していくことが必要など傾聴に値するご提案であったと思う。

平沼氏の講演は大変面白く予定を20分も超過したが皆様から好評をいただいたところである。

(写真-3①②)



写真-3① 基調講演  
廃道探検家 平沼義之氏



写真-3② 万世大路は廃道の聖地

### 分科会—パネルディスカッション (各分科会 15:30~17:10 100分)

分科会は、基調講演に引き続き、上記の大会概要で紹介したように二つの分科会が開催された。筆者は、第1分科会のパネリストを務めさせていただいたので第1分科会について主に報告する。120名近い皆様が聴講されました。

#### 〈第1分科会〉

第1分科会は、「土木遺産としての万世大路を楽しむ」をテーマにパネルディスカッションをおこなったものである。コーディネーターに元東北大学准教授後藤光亀先生(現東北土木遺産研究所長)、パネリストとして岡部達也氏(万世大路を守る会代表)、山口裕子氏(万世大路研究会副代表)それに筆者・鹿摩貞男(万世大路研究会代表代行)、アドバイザーとして梅津幸保氏(歴史の道土木遺産万世大路保存会会長、米沢市)があたった。

司会は、万世大路研究会代表幹事渋谷浩一氏です。

第1分科会では、次の視点でパネルディスカッションをおこないました。

万世大路を多くの皆様楽しんで頂くために、栗子峠の歴史を振り返り、見学者や保存維持活動の現状を報告し、今後の進め方についてみんなで考えていこうというものである。

- ①土木遺産としての価値の再認識、今後のあり方（コーディネーター後藤光亀）。
- ②万世大路の歴史と果たした役割・見所（パネリスト鹿摩貞男）。
- ③現在の維持保存活動・今後の提案（パネリスト岡部達也）。
- ④万世大路を楽しむ方法、多くの方に見学していただく為の魅力ある万世大路の整備（パネリスト山口裕子）。
- ⑤各パネリストの発言を踏まえ、山形県側の活動を紹介し、今後の万世大路のあり方についてアドバイス（アドバイザー梅津幸保）。

以下パネルディスカッションの概要について発言順に記す。

まず司会者から出演者の紹介があり、次いでコーディネーターから第1分科会の意義について説明をおこない各パネラー・アドバイザーが発言しました。

なお、パネルディスカッションは各人2回の発言（2巡）があったがここではまとめて記している。当日発表者はほとんどの方がパワーポイントにより説明しており、そのもと資料については、聴講者の皆様に配布している（筆者分は「別添資料-2「第1分科会」資料(鹿摩貞男分)」）。

(写真-4①~③)



写真-4① 第1分科会 大盛況約120名  
4F企画展示室



写真-4②A 第1分科会 大盛況



写真-4③ 第1分科会  
「土木遺産として万世大路を楽しむ」



写真-4②B 熱心に聴講される大滝会・  
飯坂史跡保存会の皆様

## コーディネーター 後藤光亀先生

最初に土木学会「選奨土木遺産」の趣意と内容について、次に「万世大路」の土木遺産認定に至るまでの経緯について説明があった。平成24年（2012年）10月6日に万世大路は土木学会選奨土木遺産として認定されているが（福島県側にも平成25年10月26日付けの認定書）、後藤先生には選考委員会委員として大変なご尽力をしていただいたと聞いている。万世大路は、県境を跨ぎ管理者も多岐にわたり土木遺産としての価値を持ちながらも、長年に亘りなかなか認定の手続きが進まなかったようである。関係当局、特に山形県当局のご努力もあり漸く認定に至ったようだ。万世大路研究会としても認定資料作成に協力しているところである。

東北地方では、現在までに31件認定されていて野蒜築港<sup>のびるちっこう</sup>・安積疎水<sup>あさかそすい</sup>・万世大路<sup>ばんせいたいろ</sup>がビッグ3といわれており、他の幾つかの土木遺産についても紹介されました。

後藤先生には、コーディネーターとしてパネラーやアドバイザーの発表を整理して頂きながら、まとめとして土木遺産として万世大路を楽しむ方法として次のような提案をいただいています。

- ・地形の成り立ちと地層を楽しむ。栗子峠付近は、貝類の化石なども産出しておりかつて海底であったことがうかがえる。
- ・遠くに見えるものも楽しむ。情報発信に工夫を。
- ・土木遺産でつなぐ地域連携。万世大路（国道13号）は東日本大震災時に米沢への避難路になり、野蒜築港もまた被害を受けた。土木遺産をキーワードとして美味しい食と話題をいただきながら、楽しい連携を進めていく。（写真-4④～⑦）



写真-4④ コーディネーター  
後藤光亀元東北大学准教授  
・司会渋谷浩一万世大路研究会代表  
幹事（左側）



写真-4⑤ 土木学会選奨土木遺産認定式  
(平成 25 年 10 月 26 日、福島市)。  
会場の皆さんに認定証と賞牌を披露  
する大滝会木村会長と高野副会長



写真-4⑥A 土木学会  
選奨土木遺産  
認定証



写真-4⑥B 土木学会選奨  
土木遺産賞牌

写真-4⑦ 土木遺産でつなぐ地域連携  
2018 年(平成 30 年)  
土木遺産野蒜築港 140 周年各地の方と  
連携を深めた(後藤光亀先生提供)。



### パネリスト 鹿摩貞男(筆者)

万世大路を楽しむためには、その歴史と果たしてきた役割を知ることが必要であると思われ、また万世大路と明治天皇との関わりや栗子新道の名称万世大路の出典や意義について紹介した。

・万世大路は、明治の新道開設・昭和の大改修・戦後の栗子国道改築(栗子ハイウェイ)と3代に亘り事業が実施されている。各事業の概要とその整備効果について説明した。(写真-4⑧)



写真-4⑧ 写真上、ニツ小屋地区の旧国道  
(旧万世大路昭和の七曲坂)急勾配・旧カーブ。  
下新国道 13 号栗子ハイウェイ。  
「月報東北地建」(昭和 41 年 6 月号)

・明治天皇の東北巡幸と万世大路の名称の下賜、その出典意義について考えてみました。

- ・万世大路には多くの見所がある。栗子隧道米沢側では明治の隧道と昭和の隧道の坑口が並列して存在する希有な状況が見られ、その他福島県側では、重厚な意匠をこらした二ツ小屋隧道、当時の橋梁技術の粋を尽くした見事な景観の新沢橋など代表的な数箇所について紹介した。

なお、筆者発表分の資料については別添資料-1「第1分科会」資料（鹿摩貞男分）にあるので参照されたい。筆者は、本分科会の事務局を担当したものであるが、運営がまずく後藤先生や皆様にご迷惑をおかけしました。しかしながら、後藤先生のリーダーシップのお陰で良い分科会になりましたこと衷心より御礼申し上げます。

## パネリスト 岡部達也氏

万世大路を見学するためには、土木遺産万世大路そのものが良好に維持されなければならないことは勿論、安全な見学通路が確保されていなければならない。実質的な管理者が不在のため、万世大路本体そのものも連絡路（見学通路）も荒れ放題危険な状況となっていて、折角の土木遺産も一般の方々の見学が将来不可能な状態になることは火を見るより明らかであった。しかし現在、万世大路とその連絡路は良好に保たれている。そこには、ボランティアの驚くべき維持保存活動があったのである。

- ・平成26年度から経常的に万世大路の維持管理作業（路面補修、排水溝整備、除草、倒木処理等）を広範囲で実施、道路崩壊箇所の復旧もおこない車両通行を可能とした（現在旧大平集落箇所まで車両通行可）。これらはすべてボランティア活動として重機等を駆使して自己負担で実施されているものである。もし、これらのボランティア活動がなければ一般の方々の見学や車両の通行はほとんど不可能になっていたと言っても過言ではなく、今回始めてその活動状況が報告された。

(写真-4⑨⑩)



写真-4⑨ 烏川橋先崩壊箇所の補修  
(岡部達也氏提供)



写真-4⑩ 守る会仲間も発言

- ・今後の課題としては、活動資金の確保、将来の活動の維持がある。  
今後の進め方として、大きな目標は旧大平集落以降の通路（万世大路）の復旧である（栗子隧道までの車両通行の確保）。

- ・後日、聴講していたヤマ仲間が「もの凄い人がいる。万世大路への愛を感じた。」(要旨)と感想文を寄せてくれています。

### パネリスト 山口裕子氏

今まで万世大路を歩いてきて感じた楽しさと魅力を紹介。これからも多くの方々に見学していただく為の魅力ある万世大路の整備やあり方について提案。

- ・万世大路の魅力は、歴史や遺構に対してマニアックな視点と直感的・視覚的に素晴らしさを感じられることである。
- ・マニアックな視点として土木技術の進展を感じることが出来ること。

直感的・視覚的には、隧道坑口の品格などや定番の撮影スポット、四季それぞれの草花を楽しむことなどである。

(写真-4⑩)



- ・多くの方々に興味を持って頂くために、例えば子ども達へ(＋保護者)の教材の提供など、地域に根ざした活動が必要。各地の子ども達への伝承例を紹介。

写真-4⑩ 2007年(平成19年)のニツ小屋隧道  
(山口裕子氏提供)

### アドバイザー 梅津幸保氏

万世大路の山形県側の各種活動について紹介、現在までも遺構の説明案内標注(板)やベンチの設置、草花名札の取付等を実施してきていることなど。また最近発掘された新資料についても披露され、万世大路を楽しむためのアドバイスがあった。

- ・万世大路へ訪れた多くの方へ散策ガイド、散策マップやガイドブックの作成配布。保存会機関紙の発行(年4回)などの情報発信。

(写真-4⑪)



写真-4⑪ 栗子隧道(米沢側)散策  
(梅津幸保氏提供)

- ・草刈倒木処理、側溝整備等の万世大路維持保存活動。
- ・新資料の紹介があった。西南戦争（不平士族、西郷隆盛らによる反乱）の際の反政府軍受刑者（四人）が隧道工事に従事していたことが分かったという。これら四人受刑者は、三島通庸県令のかつての同僚や上司であったという。
- ・万世大路を楽しむための幾つかのポイントについてアドバイスされた。

(写真-4⑬⑭)



写真-4⑬ 第1分科会:アドバイザー、パネリスト



写真-4⑭ 第1分科会事前打合せ

## 〈第2分科会〉

第2分科会は、「街道を活かした地域活性化と観光創造」をテーマにパネルディスカッションをおこなったものである。コーディネーターに福島大学経済経営学類教授奥本英樹氏、パネリストとして平沼義之氏（基調講演講師・廃道探検家）、阿部公一氏（万世大路研究会代表）、西坂邦仁氏（福島市商工観光部長）、坂川好則氏（道の駅米沢駅長）、アドバイザーとして小浪尊宏氏（国土交通省福島河川国道事務所長）があたった。

第2分科会では、次の視点でパネルディスカッションをおこなった。

万世大路の歴史や物語、土木遺産を踏まえながら、これからの地域づくりにどのように活かしていくべきなのか。そして、この街道をインバウンドも含めた広域観光や交流促進による地域の活性化に繋げるかを考えます。

なお、筆者は第1分科会に出席していたため第2分科会の状況を把握していないので、パネルディスカッションの内容については別途報告書が作成されると聞いているので後日にゆずりたい。

### 【第二部 街道談議】（18:00～ 場所:岩代屋敷大王）

フォーラム終了後は会場を移し、街道談議と称する交流会が開催されました。東北6県各地から参加された皆さんが地元の自慢の地酒を持ち寄り楽しい一時を過ごし親交を深めました。約70名の参加があったと聞いている。

(写真-4⑮)



写真-4⑮ 街道談議(於岩代屋敷大王) 記念写真

## 第 2 街道探訪会(第 1 コース「万世大路を歩く」) 9 月 28 日(土)

街道探訪会は、前記プログラムに示したように 3 コースが用意された。筆者はこの内第 1 コース「万世大路を歩く」のガイドを務めたので、本コースの概要について報告する(コースの詳細については、別添資料-3「街道探訪会第 1 コース『万世大路を歩く』案内資料」を参照されたい)。

### 〈万世大路へ〉

この日好天に恵まれ絶好の探訪日和となる。前日までの予報では雨模様になっていたのが心配されていたところであった。本コースは、募集定員 40 名ということであったが募集開始即日で満杯になったそうで相当人気があったようだ。

福島駅西口 8 時、マイクロバス 2 台で出発する。マイクロバスの後には後方支援(福島市役所事務局)として連絡車が付いた。曾根田(西)踏切から旧万世大路・飯坂街道(旧国道 13 号)に出て、成出の Y 字路交差点、十六沼、中野不動尊等を経由し旧国道 13 号を歩き、瀬沼(沖根山)で現国道 13 号にタッチする。この間、車中において種々の案内をした(国道直轄工事の始まり、飯坂街道の舗装、大笹生村御小休所・御膳水瀧清水、道路元標等)。

ほぼ予定通り東栗子トンネル福島側駐車帯に到着、新栗子トンネル換気所前から探訪開始である。旧国道 13 号(万世大路)までは、勾配が約 10%の旧工事用道路(連絡道路)を上る。この旧工事用道路は、現国道 13 号東栗子トンネル(昭和 41 年 3 月完)の工事用道路として設置されたものである。この連絡路沿いにはかつて飯坂スキー場がありリフトやロッジ跡が残されているのを見ることができる。途中一度休憩しているけれども、旧国道 13 号(万世大路)には予定より早めの 9 時 10 分過ぎに到着する。

### 〈万世大路を行く、ニツ小屋隧道へ〉

この連絡路の終点旧国道 13 号箇所は、明治期初代万世大路と 2 代目万世大路・昭和の大改修で新設されたバイパスとの分岐点付近になる(バイパス起点付近)。明治期万世大路七曲(坂)の第 1 段目に該当する場所でもあり、旧国道のすぐ上に七曲坂の第 1 号カーブ跡を見ることが出来る。2 代目万世大路は、2 箇所のヘアピンカーブでその七曲坂を大きくバイパスしている。連絡路において休憩を取ったばかりなので、ここでは予定していた休憩は取らずに、前記のような説明をしながら旧国道 2 代目万世大路(バイパス)を進む。間もなく最初のヘアピンカーブがあり、ここ

が現在下界を見下ろすことのできるほとんど唯一の場所でビューポイントと名付けられている。カエル岩（掘割箇所）を見ながら進むと見事な石積箇所にする。ここで石積についての説明をおこなうと共に、七曲坂の4段目の道路が直ぐ下に見えるので見学していただいた。昭和の大改修バイパスのほぼ中間点にあたる。

(写真-5①)



写真-5① 街道探訪会第1コース  
旧万世大路「昭和の大改修」石積

この後バイパスの2番目のヘアピンカーブを通り、それ以降もまた見事な石積が続いていて見学しながらしばらく行くと、待望の二ツ小屋隧道福島側坑口に到着する。10時過ぎであったが予定より早く着いたので、隧道や御駐輦碑（鳳駕駐蹕之蹟）等の説明をおこなった後、付近を自由に散策していただいた。一部の方々は、隧道の米沢側坑口まで行かれたようである。(写真-5②③)

二ツ小屋隧道で嬉しかったのは、「万世大路を守る会」（岡部達也代表）の皆様がおられて写真などの資料を展示してくれていたことである。記念写真の際には、2020年東京オリンピック・パラリンピック（福島市は野球・ソフト開催地）の横断幕を掲げていただき皆様も記念になったことと思われる。また、「二ツ小屋保存会」（高橋一夫幹事長）の皆様や有志の方々も駆けつけて来てくれ引き続き環境整備を実施されると共に、我々見学者を暖かく見守っていただきました。皆様のバックアップには探訪会ガイドとして大変心強く思った次第で、皆様のご好意に心から感謝申し上げます。

(写真-5④～⑥)



写真-5② 二ツ小屋隧道福島側坑口到着、  
配布された案内書を熱心に見る参加者。



写真-5③ 鳳駕駐蹕之蹟や山神様も見学



写真-5④ 「守る会」で準備してくれた写真等資料の展示。



写真-5⑤ ニツ小屋隧道福島側にて 1号車の皆さん。



写真-5⑥ ニツ小屋隧道福島側にて 2号車の皆さん。

ニツ小屋隧道には予定より早く到着したこともあり 30 分以上の滞在時間を確保することができ皆様にも満足していただけたようである。10 時半過ぎニツ小屋隧道をあとにし 11 時過ぎにバス駐車箇所に戻ることができ、次の目的地国土交通省栗子国道維持出張所へ向かう。

#### 〈慰霊碑を参拝、旧大滝集落(大滝御小休所)へ〉

国土交通省福島河川国道事務所栗子国道維持出張所には、昭和 36 年 10 月～昭和 41 年 5 月までの栗子国道改築工事(栗子ハイウェイ)の殉職者 19 名を祀った慰霊碑が建立されている。慰霊碑は、栗子国道(栗子ハイウェイ)関連のトンネル・道路等の寸法や意匠を象徴化したデザインとなっている。殉職者の中には女性も含まれており、人数が多いこともあって見学者の皆さんの関心は高いようであった。何げなく日頃通行している国道 13 号ではあるけれども、このように身命を賭して働いていた方々がおられたということを忘れてはならないであろう。この度の探訪会コースの一つとして皆様に見学していただいた所以でもある。

(写真-6①)



写真-6① 慰霊碑(国土交通省栗子国道維持出張所)

ところで、出張所は従来 24 時間体制であったが、本所（福島河川国道事務所）での集中管理に移行したことに伴い現在土日祝日は閉庁となっているそうである。そのような中で今回の探訪会に関して種々のご配慮を賜ったことにつきまして出張所に感謝申し上げます。

この後、旧大滝集落へ向かう。大滝分校跡の大滝記念碑、大滝山神神社等を見学し昼食とした。昼食は、めいめい好きなところで食べて貰っています。ここでは、大滝会木村前会長が齋藤会長と共に待っていてくださりご挨拶をしていただきました。またこの後の大滝御小休所までお付き合い願ひ皆様の質問などに対応して頂きました。ご多忙のところありがとうございました。

1 時過ぎ、大滝御小休所（旧中屋旅館・渡辺家）へ移動しました。大滝御小休所は、明治 14 年 10 月 3 日栗子隧道米沢側でおこなわれた栗子新道開通式を終えられた明治天皇が福島へ向かう途中に御小憩された場所で、往時のままの建物が現存している唯一の場所である。建物の前には天皇がお休みになったことを記念する御駐輦記念碑「鳳駕駐蹕之蹟」（明治 41 年 9 月 12 日建立）と昭和 10 年 11 月の文部省史蹟指定の記念碑（昭和 18 年 11 月建立）がある。また、明治天皇がお使いになれた御膳水用清水の跡もあり案内した。当該箇所は、皆様にとってもやはり感心が高いようで、案内の木村前会長（お父君が大滝御小休所渡辺家ご出身）にも多くの質問が寄せられておりました。

**(写真-6②③)**



写真-6② 大滝山神神社



写真-6③ 大滝御小休所(旧中屋旅館・渡辺家)。  
参加者の質問に答える木村大滝会前会長。

大滝集落は、明治 10 年（1877 年）7 月着工の中野新道（万世大路の福島県側）工事に合せその基地として 3 軒の宿屋から始まったという。今回見学して頂いた大滝御小休所はその内の一つ中屋旅館（渡辺家）である。中屋の西隣が宮内屋旅館（高野家）で、明治 21 年 1 月 5 日、吹雪の中遭難した二ツ小屋駐在所の森元源吾巡査が立ち寄った最後の消息地となったところである（後の見学「殉職警察官之碑」関連）。もう 1 軒の西村屋旅館（半田家）はこれらの 2 軒の近くにあったことは確かであるが、早い時期に大滝を引き払っているようで詳細は分からないという。

この後は、若干引き返すような形になるけれども、新沢橋とその周辺の見学に向かう。

なお、大滝集落内の除草枝払いや大滝御小休所の整備など幾度も実施していただいた大滝会の皆様に御礼申し上げます。大滝会では、この他に二ツ小屋隧道までについても除草枝払いに協力しております。また、集落内市道の路面整備につきまして飯坂支所様にご協力をいただき、スムーズなバス運行が計られ快適な探訪会となりましたこと御礼を申し上げます。

### 〈新沢橋へ〉

現国道13号大滝第2トンネルを抜けて米沢側へ数百メートルほど進んだ所の左側に二ツ小屋駐車帯がある。その道路向いに国交省の観測小屋があるけれども、その場所は新国道の開通時点では、旧国道への取付道路（2、30メートル）の入口であったが途中崩落し使用不可能になっている（その時期は不明）。現在は、歩行者のみが通行できる坂路が取り付いている。

その坂路を上がると直ぐ旧国道（「昭和の大改修」（昭和8年～昭和12年）で新設）になり、森元源吾巡査の慰霊碑（「殉職警察官之碑」）がある。これは当該箇所から米沢側へ約700先に建立されていた石碑を移設したものである。

殉職碑を福島側へ少し進むと3代目の新沢橋（米沢側）がある。昭和の大改修において昭和11年12月に完成した鉄筋コンクリートアーチ橋（L=42m）で、80年以上経過した今日でもその優雅な佇まいに魅了される。皆様も感心して暫く見入っていた。

（写真-6④）



写真-6④ 第3代新沢橋見学

新沢橋は、当時の内務省仙台土木出張所福島国道改良事務所（現国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所）職員の和里田新平氏（元内務省阿武隈川工事事務所第10代所長＝現福島河川国道事務所、元建設省関東地方建設局長等を歴任）が昭和10年4月大学を卒業してきて内務

省に採用され直ぐに設計を担当した。工事は、内務省における直営工事として実施されたものである（工事期間：昭和10年4月～昭和11年12月）。

新沢橋を渡って福島側へ行くと左手新沢上流（左岸側）には明治期初代万世大路が残存している。そこを皆様には旧滝橋遺構まで数十メートル歩いて初代万世大路を偲んでいただいた。この新沢橋周辺では、初代万世大路と第2代万世大路（第3代新沢橋）と第3代万世大路となる現国道13号栗子国道（栗子ハイウェイ）を同時に観察でき、土木技術の進歩そして道路の歴史を学ぶことの出来る絶好の場所である。

万世大路の見学はここで終了することとなるが皆様にはご満足いただけたかと思う。2時過ぎ予定より早めであったが、最後の見学地医王寺へ向かう。

### 〈最終見学地 医王寺へ〉

探訪会参加者はほとんどが福島市内の方であったが医王寺には来られていないという方が少なくなかった。

医王寺は、正式には真言宗豊山派瑠璃光山医王寺と云い、平安時代の天長3年（826年）弘法大師（空海）によって開基されたという。

何れも源義経を守って戦死したと伝えられる従者佐藤 継信・忠信 兄弟（信夫庄司佐藤 基治 子息）の菩提寺である。二人の母親 乙和 姫（奥州藤原氏初代清衡の孫娘『信達二郡村誌』（福島市史資料叢書第40輯所収））は二人の死を大変悲しまれ、その悲しみのあまり医王寺境内の椿（乙和の椿）は蕾のままで落花し開花しないということで知られる。また、兄弟の妻達（若桜・楓）は、夫の凱旋の勇姿を装い帰還したように思わせて義母乙和姫を慰めたという逸話が伝えられている。

松尾芭蕉は、元禄2年（1689年）5月2日「おくのほそ道」で医王寺を訪れている（『おくのほそ道』では寺の中に入ってお茶をご馳走になったと記述されているが、『曾良日記』その他解説本によれば寺の中には入っていないという）。上記の逸話を聞いた芭蕉は「笈も 太刀も五月にかざれ 紙幟」の句を残しており境内に句碑がある。今年令和元年（2019年）は、芭蕉が訪れてから丁度330年にあたる。



皆様には、芭蕉の句碑や本堂内の兄弟の妻達の仏壇に飾られている人形（若桜、楓）を案内しました。その後杉並木を通り抜け、奥の院薬師堂や佐藤一族の墓所、乙和の椿等を見学、最後に 瑠璃光殿（宝物殿）で弁慶の笈などをご覧いただきました。 **（写真-7①～③）**

写真-7① 医王寺境内 芭蕉句碑  
「笈も太刀も五月にかざれ紙幟」



写真-7② 医王寺本堂人形。  
左側佐藤忠信公(弟)奥方楓の方  
・右側佐藤継信公(兄)奥方若桜の方。



写真-7③ 医王寺・佐藤継信・忠信公兄弟墓地

皆様のご協力により予定通りに無事探訪会を終了することができ、福島駅西口にはほぼ予定通り4時前に帰着することができました。皆様にはご満足いただけたかと自負しておりますが至らないところがあればお詫び申し上げます。

### 第3 関連行事 特別講座(こむこむ館) 9月29日(日)

最終日、関連行事として福島市史編纂室守谷早苗先生(午後の部)と柴田俊彰先生(午前の部)による万世大路に関連する特別講座があり、午前午後共定員50名のところ倍の約100名の聴講があったそうで、補助イス追加で事務局が大忙しでした。講師の先生も、募集定員の50名にはならないと思っていたようで聴衆の多さにびっくりしておられました。筆者も午前午後とも聴講したところですが興味深い話題が紹介され大変勉強になりました。

#### ①(午前の部)「米沢街道の歴史」講師 柴田俊彰

中世から近世にかけての米沢街道の歴史について分かり易く解説されました。冒頭の話題として、福島～米沢の交流を歴史的に捉えた場合、中世米沢街道が第1世代、近世米沢街道が第2世代そして万世大路は第3世代になるという自説を披露されておられました。むべなるかな、筆者もこの考え方に賛同したい。万世大路について明治の新道開設を第1世代、昭和の大改修を第2世代、現国道13号栗子国道(栗子ハイウェイ)を第3世代と表現する向きがあるが、筆者には若干の違和感を禁じ得ないところがある。勿論そのような表現を否定するつもりはまったくないので、それぞれに使用していただくことに異論はない。ただ筆者は万世大路に関しては、初代・第2代…という表現をしていて、世代という表現は用いていないというだけである。

米沢(板谷)街道が単に万世大路の前身の道路ということだけでなく、多くのロマンを秘めた魅力に満ちた街道であるということを改めて認識した講座であった。(写真-8①)



写真-8① 特別講座(午前の部)「米沢街道の歴史」  
柴田俊彰先生(こむこむ館 2階学習室)

## ②(午後の部)「明治9年・14年の東北巡幸と福島町そして万世大路」講師 守谷早苗

明治天皇の全国巡幸は、近代日本建設の上で相当に意義のあることと思われるが、歴史の教科書では教わらなかったような気がする。明治天皇によるいわゆる六大巡幸の歴史的な意義について分かり易く解説していただき勉強になった。

六大巡幸の5番目となる東北(北海道)巡幸が万世大路と密接な関連があることも改めて認識し「万世大路」という名前を下賜されたことは本当に幸せなことだったと思う。万世大路の魅力が何よりもこのネーミングの良さにあることは多くの方が認めておられる。

今回の講座で初めて知ったことがある。それは、中野新道(万世大路)の開通に伴い旧道(板谷街道)の<sup>すももだいら</sup>李平 駅は廃止されるので、万世大路<sup>おおだいら</sup>大平 駅への移住が推奨されていたことである。移住の際には120円(現在の60万円相当)を支給するということであったが、結果的には誰も行かなかったようである(※)。

このような興味深い話題は、今回のような講座でもなければ知ることが出来なかったであろう。実にためになる講演会であった。

(写真-8②)



写真-8② 特別講座(午後の部)  
「明治9年・14年の東北巡幸と福島町  
そして万世大路」守谷早苗先生

※ これは、特別展示(後述)で展示された明治14年8月の文書「中野新道宿駅設置見込書」に書かれている。この文書は、堰場・大滝・大平の3駅の設置についてのいわば計画書である。大平については、前述の通りであるが、大滝の移住に際してはお金の支給はなく牝馬1頭貸与するとあり、堰場についてはすべて自弁とある。環境の厳しさに準じた措置が取られていたことがうかがえる。因みに、万世大路(福島県側)の新駅設置の責任者として福島県職員5等属遠藤謙吾が「中野新道新駅設置殖民世話掛」に明治14年8月18

日付けで当時の県令山吉盛典から任命されている。これらの文書については、別の機会に詳しく紹介したいと思う。(福島市史編纂室所蔵)

#### 第4 関連行事 企画展・パネル展 (こむこむ館) 9月25日(水)～10月4日(金)

##### ① 画展「明治の東北巡幸と福島町、そして万世大路」(解説 守谷早苗 柴田俊彰)

明治9年(1876年)と明治14年(1881年)の東北巡幸と福島町、そして万世大路関連の資料が展示されました。主なものとして「木戸孝允書『終始一誠意』」「栗子新道画図」(明治14年)「福島県下中野新道御通輦沿道地図」(明治14年)「中野新道宿駅設置見込書・辞令」等。また、馬留石と馬模型や人力車(実物)も展示されました。守谷・柴田両先生が解説にあたり多くの方が興味深そうにご覧になっていました。

(写真-8③④)



写真-8③ 特別展示  
「明治9年・14年の東北巡幸と  
福島町そして万世大路」



写真-8④ 来場者多数の特別展示会場  
(こむこむ館1階にぎわい広場)

##### ② パネル展示「万世大路、そして東北中央自動車道へ～歴史をつないで～」

(国土交通省福島河川国道事務所)

初代の万世大路から東北中央自動車道の建設に至るまで、その工事状況や整備効果等を説明する写真やパネルが展示されました。展示写真の中には、福島市内の古い写真などもあって、多くの市民の方が立ち止まり、隣の方と懐かしそうにお話しをされながら見ておられたのが印象的でした。

展示写真の中に、現在の東栗子トンネル(工事名栗子第1トンネル)の貫通式の際に福島側坑口で撮られたものが展示されています。筆者は気付かなかったのですが、写真の中に警察官が一人写っていて、その人物は自分の父親だという来場者おられ、当時飯坂警察署の駐在だったそうで、大変懐かしいと話されていました。

(写真-8⑤～⑦)



写真-8⑤ 国土交通省パネル展  
「万世大路、そして東北中央自動車道へ  
～歴史をつないで～」  
(こむこむ館1にぎわい通り)



写真-8⑥ 国土交通省パネル展  
「万世大路、そして東北中央自動車道へ  
～歴史を繋いで～」



写真-8⑦ 昭和39年7月19日栗子第1  
トンネル(東栗子トンネル)貫通式。  
福島側坑口、  
左から沼倉貞・舞石満幸・北見武夫・  
○・大島一男・松崎金吾・駐在・早坂典男・  
鈴木正五郎・鈴木錦一・○(敬称略)

## おわりに

この度、とうほく街道会議第15回交流会が、我等が万世大路をメインテーマに「万世大路・福島大会」と称して開催されましたことは、我々万世大路をこよなく愛する者にとって誠に嬉しいことでした。筆者も微力ながら実行委員会事務局スタッフとして協力できましたことを誇りに思います。

(写真-9)



写真-9 万世大路福島大会第1回実行委員会(市民会館)H310228

皆様のご努力のお陰で交流大会は成功裏に終了することができました。事務局を担当された福島市役所建設部や他の担当部局の皆様に御礼申し上げます。また、とうほく街道会議、万世大路研究会、二ツ小屋保存会、万世大路を守る会、大滝会その他関係者の皆様にも御礼申し上げます。

本報告は、主に筆者の関係した部分を中心にその概要と感想を報告したもので、不完全なものであることはいうまでもなく、詳細については後日正式な報告書が発表されますのでそちらを参照していただければと思います。

今回も本報告書編修にあたり大滝会 HP 管理人紺野文英様にお世話になりました。心から御礼申し上げます。また、写真提供をいただいた大滝会相談役伊藤弘治様にも感謝いたします。

## 別添資料（ハイパーリンク）

1. [【とうほく街道会議第15回交流会万世大路・福島大会】プログラム](#)
2. [「第1分科会」資料（鹿摩貞男分）](#)
3. [街道探訪会 第1コース「万世大路を歩く」案内資料](#)
4. [【とうほく街道会議第15回交流会万世大路・福島大会】チラシ](#)
5. [同 ポスター](#)
6. [「特別企画展」チラシ](#)
7. [新聞記事](#)
8. [パネルディスカッション 第1分科会報告（概要版）  
「土木遺産としての万世大路を楽しむ」](#)